
パーフェクト転校生

ラッキーライン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

パーフェクト転校生

【Nコード】

N2931T

【作者名】

ラッキーライン

【あらすじ】

ある日、転校生がきた。スポーツ万能で勉強万能顔もいいパーフェクト転校生。しかし、ある秘密があった。それは……………

いつもの学校。いつもの教室。おもしろいことは何もない。毎日同じだった。あいつが来るまでは……

「おはよう！椿！何か考えこと？」

あつ。おはよう、桜。いや、毎日同じでつまらないなあと思って。

「ふうん。たしかに。毎日同じだもんねえ。あつ、でも転校生が来るってうわさがあるから少し変わるかもね。」

転校生ねえ。あんまり、興味ないけど少しは変わるかもねえ。

「わつ。先生来たからまた後でね。」

うん、また後でね。

「知っているものもいるようだが転校生を紹介する。」

ええ！本当だったんだ。興味ないって言ったけどやっぱり、気になるなあ。「おおい！入って来ていいぞ。」

あつ！入って来た！うわ！すごい！カッコいい！まさか、こんな転校生が来るなんて！

「高崎新です。よろしく！」

声からしてやさしそうなかんじがわかるよ！席どこになるんだろう？あつ空いてる！私となり空いてる！てっことはもしかして……

「席は上原のとなりが空いてるからそこにしなさい。」

やっぱり！ヤッター！すごいラッキー！あんな王子様みたいにかっこいい新君のとなりになれるなんて！「よろしくね！上原さん。」

あつうん！よろしくね！後、椿でいいから。

「わかった。改めてよろしくね。椿さん」

ああ。すごいかっこいい！もう、最高！

.....

「椿っ！帰ろう！」

ああ。うん。帰ろう、桜。

「ねえ！転校生の新君！すごいよね！体育もできるし勉強もできる

し。パーフェクト転校生だね。」

パーフェクト転校生かぁ。確かにそうかも。体育の時、走る姿がすごいかったもん。

「私、今日塾あるから。また明日！」

バイバイ。また明日！学校で！さあて。独りになっちゃったし本屋にでもよるかな。ん？あれは新君！新君も本屋に行くかな？声かけちゃおう。おあい！新しく……！？えっ！そこ、萌え萌えコミックのたなじゃん！ということとは……。

「萌え萌えコミック、150円です。」

「はい。」

「ありがとうございます。」わっ！こっちに来る！かくなないと！

「あつ！椿さん！もしかしてコミック買ってるの見た？」

……。ごめん！たまたま新君がいたから声かけようと思って。

「いいよ。むしろ他の人じゃなくてよかった。」

新君がそういうんならいいけど……。まさか新君が萌えキャラが好きだったとは。

「立ち話もなんだから公園にでも行こうよ。」

うん。……………

「俺さ、小学生の時から萌えキャラが好きでさ。なんていうかなあ。ぜんぜんモテなかったんだ。でも、まんがならそれが関係ないから、現実逃避してた。それを続けていくうちに好きになってた。」

へえ。昔はモテなかったんだ。

「まあ、今もこの秘密がひろまればモテないけどな。」

だいじょうぶ！私、絶対秘密にするから！

「ありがとう！たのむな！あつ！そうそう！明日空いてる？ちょっと付き合ってほしいんだけど。」

うん。いいよ。明日、用ないから。

「じゃあ、明日9時にここへ集合な！また明日！」

ヤッター！なんかデートみたい！ああ、明日に早くならないかなあ。

……………

もう、時間になるかなあ。新君まだかなあ。

「おおい！」

「ごめん！遅かった？」

「ううん！私も今来たところだから。」

「なら、よかった。あつ！そうそう、これ着て。」

「ええ！？こつこれ？このコスプレを私が！」

「たのむ！今日だけでいいから！」

「……しょうがない。着てあげるよ。ただし今日だけね。」

「本当！ありがとう！じゃあ行こうか！」

「うん！行こう！」

「お帰りなさいませご主人様。」

「………なんで私はメイドカフェなんかにいるんだ？ああ。新君に付き合ってるからか。この、コスプレ大好きオタクやろうめ。ああ、早く帰りたい……………」

「今日は、ありがとう。楽しかったよ。」

新君がやさしく微笑む。うわ、カッコイイ。私はおもわず赤くなっていたそのとき！

「あれ？新！と……………椿！おまえ、もしかしてコスプレ大好きオタク？」

と、タイミング悪く学校の中で一番口が軽い和夫がきた。ていうか、私はオタクじゃない！

「うそつけ！ビクニユースだ。学校のみんなに言つといてやる！」
え！そんな！やめて！そう、私が叫んだ時！

「コスプレ大好きオタクは俺だ！」

と新君が言つた。

「へえ！んじやみんなに言つていいか？」

和夫が嫌味つたらしく言つた。

「いいぜ。でも、椿のことは悪く言つな！」

え……。今、呼び捨てした？うわ！カッコイイ。

「んじやな！」

和夫は、去つて行つた。

「大丈夫だった？」

新君が、心配そうに言う。

かちやり

何かが落ちる音。まあ、たぶんこれは恋に落ちる音だろう。

「新君！大好き！」

私は思わず言つた。すると、新君も満面の笑みを浮かべてこう言つた。

「俺も、椿のことが大好きだ！」

こうして、私たちはめでたく結ばれた。

あなたがオタクでも、私はあなたのことが大好きだよ。

（後書き）

初めての短編でした。楽しんでいただけたら幸いです。
ラッキーライン

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2931t/>

パーフェクト転校生

2011年6月22日11時52分発行